



がん研有明病院

トータルケアセンター 通信

2026年1月16日発行 第11号
公益財団法人 がん研究会有明病院
トータルケアセンター・医療連携担当

〒135-8550
東京都江東区有明3-8-31
TEL:03-3520-0111(代表)



～新年のご挨拶～

皆様、新年明けましておめでとうございます。今年もがん研TCC通信をお届けいたします。

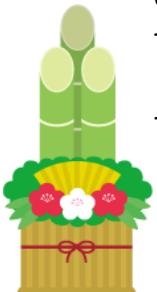
がん研が大塚から有明に移転して昨年で20年が経過し、病院として新しい20年が始まっています。手狭になった院内のフロア見直しプロジェクトが進み、昨年9月、患者さんが外来通院で抗がん剤治療を受ける「外来治療センター」(以前「ATC」と呼んでいました)が増床してスタートしました。そして本年4月には、広く大きくなったトータルケアセンターがいよいよオープンします。初診時から治療後の退院・生活支援まで、これまで院内のあちこちに分散していた機能がここに集約されますので、患者さんを取り巻くさまざまな情報が一つの場所で効率的に管理され、連携医療機関の皆様とのやりとりもよりスムーズになるはずです。

がん研有明病院は、患者さん、ご家族が集中してがん治療に取り組んでいただけよう、病院をあげてサポートいたします。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



病院長
佐野 武



～がん研キッズ探検隊を開催しました!～

TOPICS



サバイバーシップ支援室 チャイルド・AYAサポートチーム
乳腺外科副医長 植弘 奈津恵

チャイルド・AYAサポートチームで2022年より開催しているがん患者さんのご家族のお子さんを対象としたがん教育と心理教育を組み合わせた院内ツアー「がん研キッズ探検隊」ですが、2025年度は第5回を6月29日に院内で、第6回目を12月7日にオンラインで開催しました。

第5回はこれまで最も多い11家族16名の子供達が実際に院内を探検しました。今回は念願の手術室の見学が叶い、手術で使用するロボットや麻酔器の見学、手術ベッドに寝る体験等を行いました。薬剤部では点滴の調剤体験、外来治療センターでは治療用リクライニングチェアに座ったり、輸液ポンプを操作したりしました。

第6回は4家族5名の子供達が参加し、これまで同様、ビデオを用いた院内探検を行いました。こころのお話では、気持ちが落ち込んだ時の対処方法などを活発に意見交換ができました。

現地とオンライン両方に参加して下さるお子さんもおられ、同じ境遇のお子さんとの交流が有意義なものとなっているようです。



子供達が手術支援ロボットのコンソール(操作台)に座って説明を受けている様子



がん研有明病院
THE CANCER INSTITUTE HOSPITAL OF JFCR

～診療科紹介～

整形外科

整形外科が扱う骨軟部肉腫は稀な疾患であり、common cancerである大腸がんや肺がんの年間新規発生数が人口10万人当たり約120人、100人であるのに対し、肉腫は約3人と極めて少なく希少がんに分類されます。骨軟部腫瘍専門医も希少職種で、日本整形外科学会の専門医2万人超の中で200名余と約1%を占めるにすぎません。

長い歴史を持つがん研の中で整形外科の開設は比較的新しく1977年です。当時は肉腫診療の黎明期で標準治療体系は存在せず各施設で治療が異なり、骨肉腫は基本的に切断術が行われ5年生存率は40%未満、軟部肉腫では患肢温存手術後の局所再発率は50%、5年生存率は40%未満と治療成績は極めて不良な時代でした。その中でがん研整形外科が開発した広範切除術は、患肢温存手術を90%以上の症例で可能とし、局所制御率は90%以上に改善したことにより、現在の骨軟部肉腫手術における標準治療となりました。その後も数々の新規手術法を開発し、国内有数の骨軟部肉腫手術センターとして現在は希少な骨軟部腫瘍専門医が8名（留学2名含む）在籍しています。

整形外科は肉腫治療だけではなく、「がんロコモ」診療で広く活躍しています。①がんの進行（局所進行や骨軟部転移など）②がん治療由来（手術後神経障害、ホルモン療法後骨粗しょう症など）③がんに併存する整形外科的疾患（変形性関節症、腰痛など）による運動機能障害を持つがん患者さんについても、運動器外科として積極的に介入することを通して腫瘍学的治療成績の改善をサポートしていきたいと考えております。

婦人科

がん研有明病院婦人科は、婦人科悪性腫瘍の専門診療を担い、医員・スタッフあわせて25名の診療体制で行っております。2024年の婦人科浸潤がんの件数は卵巣がん236件、子宮体がん264件、子宮頸がん169件です。手術療法・薬物療法・放射線治療を組み合わせ、エビデンスに基づいた集学的治療を実践しています。

子宮頸がんでは腹腔鏡手術、センチネルリンパ節手術、妊娠性温存手術など、根治性と機能温存の両立を重視した治療を積極的に行ってています。

子宮体がんに対してはロボット支援下手術を含む低侵襲手術を導入し、病期に応じた治療を提供しています。

卵巣がんでは徹底的な他臓器合併切除を駆使し高い完全切除率を達成し、薬物療法をあわせた集学的治療を行っています。

さらに、遺伝診療、がん生殖医療、治療後のヘルスケアにも注力し、若年患者さんのライフプランや治療後の生活の質まで見据えた診療を大切にしています。診断確定前や治療方針に迷われる症例についても、どうぞお気軽にご相談ください。



整形外科部長
阿江 啓介



婦人科部長
金尾 祐之